

第2回 ダイバーシティ就労推進地域プラットフォーム会議

2023年3月1日



Sustainable
Support

目次

I.	<u>本会議の位置付け</u>	P.2
II.	<u>WORK!DIVERSITY実証化モデル事業の実施報告</u>	P.7
III.	<u>本事業の対象者像ならびに利用後の変化について</u>	P.16
IV.	<u>前回会議の検討事項について</u>	P.22
V.	<u>就労困難者を支える地域資源に関する意見交換</u>	P.25

I. 本会議の位置付け

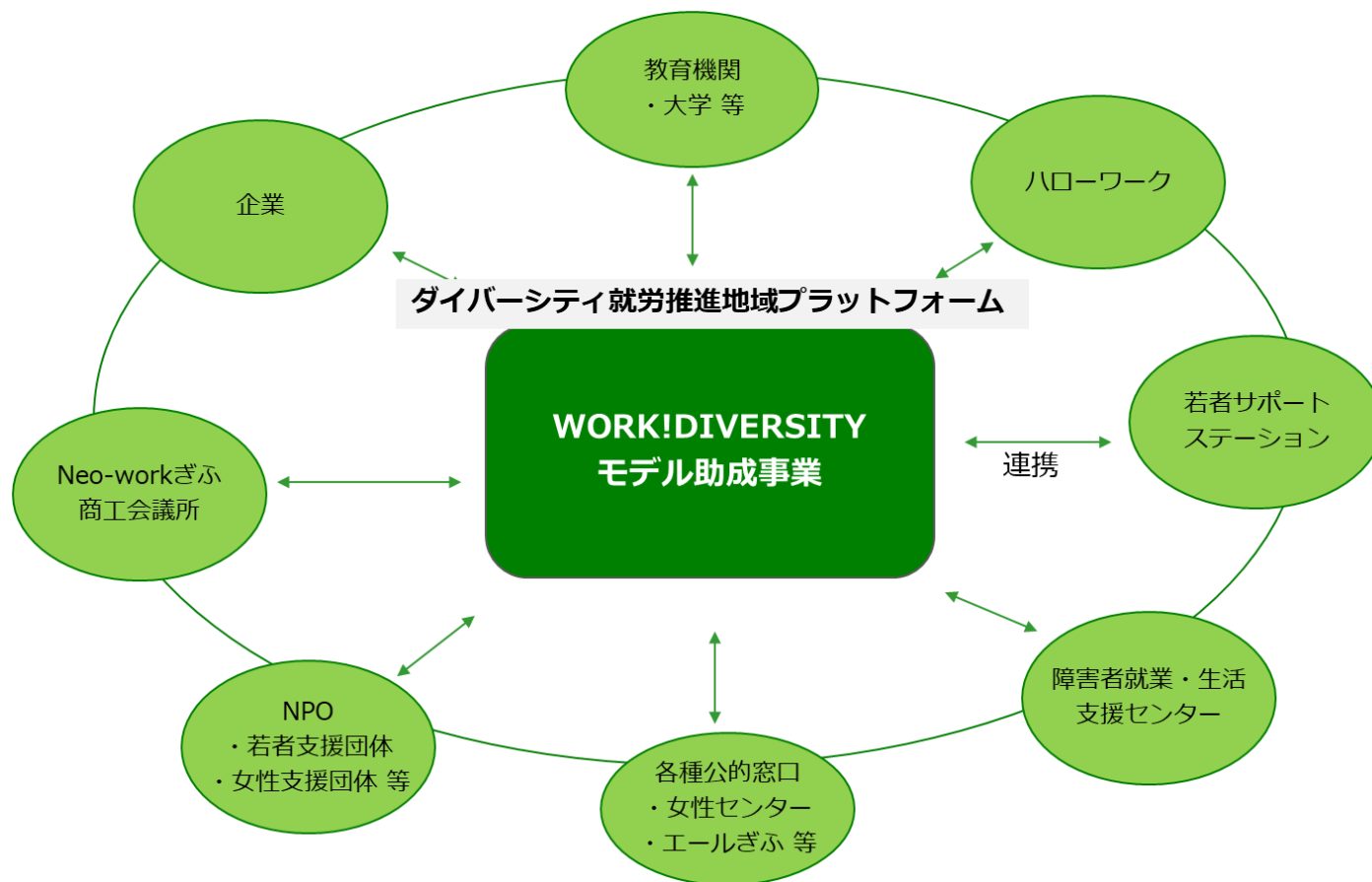


Sustainable
Support

I-1.ダイバーシティ就労推進地域プラットフォーム

- 日本財団WORK！DIVERSITY実証化モデル事業を推進するにあたり、効果的な就労支援を行うために、岐阜市において「ダイバーシティ就労推進地域プラットフォーム」の構築を目指す。ネットワーク促進のため、関係者とともに連携会議を実施する。

地域ネットワークイメージ図



I-2.ダイバーシティ就労推進地域プラットフォーム会議のねらい

■ 本会議を開催する目的・ねらいについて以下の通り整理した。

1. 多様な就労困難者を地域で支えるためのネットワークづくりを行う

- 多様な働きづらさを持つ方たちが一緒に働けるようになるためには、地域レベルで、縦割りや制度の枠組みを超えた多様な支援者、支援機関の協力が必要。
- そのために地域支援関係機関、就労事業所、学校・教育機関、自治体等の行政機関などの関係者が結集した連携ネットワークを構築。

2. 地域の就労困難者・現場で求められる支援について検討し、支援の場へ活かしていく

- グレーゾーン、引きこもり、難病、LGBTQ、刑余者など多様な働きづらさを持つ方たちは、態様も様々。その態様になっている要因や環境にも着目し、地域レベルで、縦割りや制度の枠組みを超えた継続性のある支援を行えるよう、協議・検討の場を作る。

I-3. WORK!DIVERSITY実証化モデル事業の実施スケジュールについて

- 来年度の事業全体の実施スケジュールについて、以下の表に整理した。

日時		場所	内容
2023年	3月1日	岐阜市役所	第2回ダイバーシティ就労推進地域プラットフォーム会議開催
	3月31日	岐阜市 (当法人本部)	2022年度ワーク・ダイバーシティ実証化モデル事業終了・実績報告
	4月1日	岐阜市 (当法人本部)	2023年度ワーク・ダイバーシティ実証化モデル事業開始・周知・利用者受入開始
	7月予定	岐阜市 (詳細未定)	第3回ダイバーシティ就労推進地域プラットフォーム会議開催
	11月予定	岐阜市 (詳細未定)	第4回ダイバーシティ就労推進地域プラットフォーム会議開催
2024年	3月予定	岐阜市 (詳細未定)	第5回ダイバーシティ就労推進地域プラットフォーム会議開催
	3月31日	岐阜市 (当法人本部)	2023年度ワーク・ダイバーシティ実証化モデル事業終了・実績報告

I-4.本会議における検討事項について

- 本会議の年間の実施時期ならびに、各回のゴールとアジェンダについて整理をした。

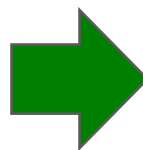
第1回目(11月)

ゴール

- ・ 本事業内容の理解と現在の状況共有
- ・ 岐阜市における就労困難者の把握と必要な支援を地域の関係者と共有する

主なアジェンダ

- ・ 「WORK!DIVERSITY実証化モデル事業」に関する説明
- ・ 事業の進捗状況に関する報告
- ・ 岐阜市における就労困難者について、また必要な支援についての意見交換



第2回目(3月)

ゴール

- ・ 本事業の初年度における成果と課題を共有し、今後に向けての総括を行う

主なアジェンダ

- ・ 事業の進捗状況に関する報告
- ・ 第1回会議における検討事項と実施報告
- ・ 就労困難者を支える地域資源に関する意見交換

Ⅱ. WORK!DIVERSITY実証化モデル事業の実施報告



Sustainable
Support

II-1. WORK!DIVERSITY実証化モデル事業とは

- 本事業の概要を以下にまとめた。

**障害の有無に関わらず、様々な理由で働く事に困難を抱えた方に
就労系障害福祉サービスを提供して就労を目指す事業です。**

「働きたいけど、働けない」という状況にあるすべての岐阜市民を対象に、岐阜市内の就労移行支援事業所・就労継続支援A型事業所にて、働き続ける力を身につけるための支援を提供します。既存の制度では支援対象とならない、働きづらさを抱えた市民への就労支援を行う取り組みです。

提供する支援メニュー



Ⅱ-2.主な支援対象者

- 本事業における支援対象者を、以下のとおり整理した。

ニート

ひきこもり

グレーゾーン

難病患者

がんサバイバー

LGBT

刑余者など

**働きづらさを抱えた岐阜市民
(原則、障害者手帳をお持ちでない方)**

例えば・・・

- 発達障害や知的障害ボーダーライン等の特性により、就職活動や就労に課題を抱える方
- ひきこもり状態にある方で、ただちに就職活動や就労に向かうことができない方
- 生育歴（学校生活・家庭環境等）に課題があり、社会性の獲得に困難を抱え、自力で就労に向かうことが困難な方
- その他、無業/失業状態が長期的に続いており、就職活動や就労に課題を抱える方

Ⅱ-3.ダイバーシティ就労支援拠点

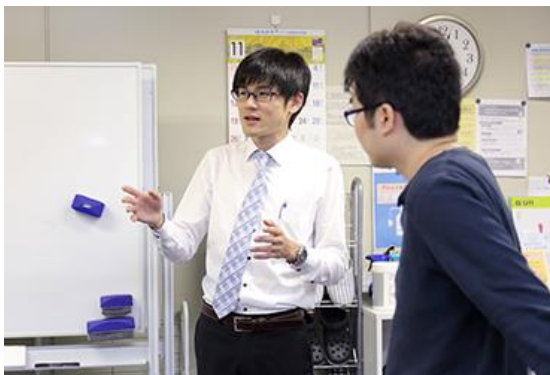
- 連携先である岐阜市内の5つの就労移行支援事業所・就労継続支援A型事業所を「ダイバーシティ就労拠点」と呼んでいる。

就労継続支援 A型事業所



ぎふ就労支援センター

就労移行支援事業所



ウェルテクノスジョブトレーニングセンター岐阜



工房はばたき



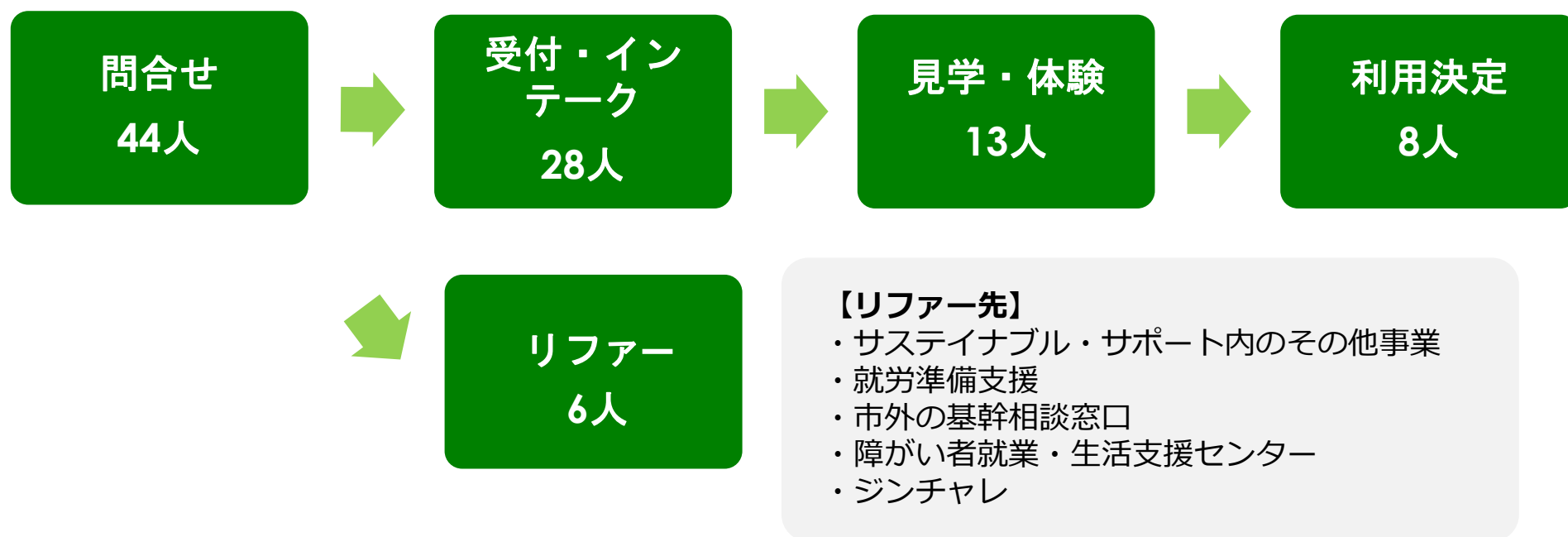
ノックス岐阜



ワークサポートあすなる

Ⅲ-4. 2022年度WORK!DIVERSITY実証化モデル事業の実績概要

- 2月16日時点の、2022年度「WORK!DIVERSITY実証化モデル事業」における実績等の概要について下記に整理した。



Ⅱ-5. 問い合わせ状況について

■ 9月から事業を開始してから2月16日時点までの問い合わせ状況を以下にまとめた。

●流入経路について

- ・ 問合せがあった44名のうち、19名（43%）が支援機関からの紹介だった。ついで、広報ぎふ、チラシ、フリーペーパーからの流入が多かった。
- ・ なお、紹介いただいた主な支援機関は、「岐阜市生活福祉課」「生活就労サポートセンター」「ハローワーク」であった。

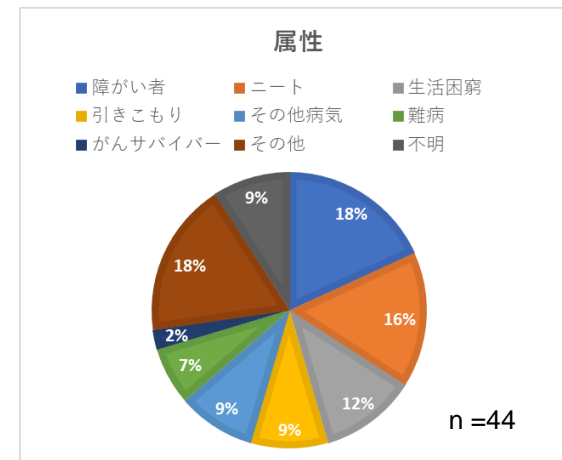
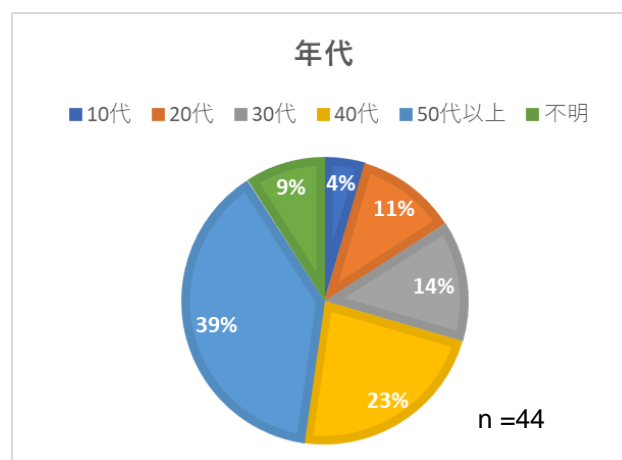
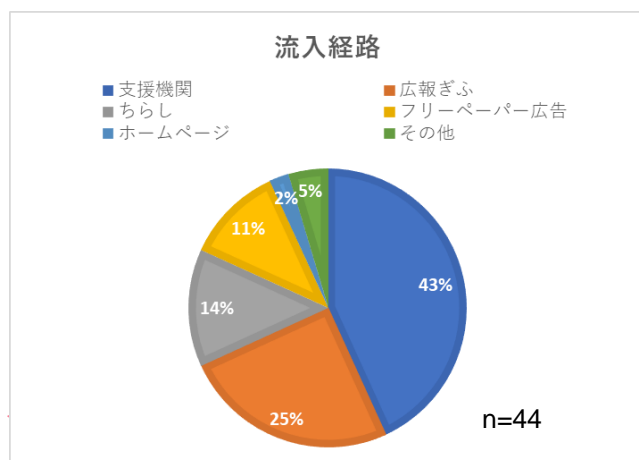
●性別・年代について

- ・ 性別については、男性が23名・女性が19名・その他2名となった。男女比については性別の違いで大きな差は生じていない。
- ・ 年代については、50代以上からの問い合わせが一番多く、39%を占めている。続いて40代が23%と年齢層高い方からの問い合わせが多い状況。

●属性について

- ・ 「障がい者」18%と一番多く、ついで「ニート」16%「生活困窮」12%「引きこもり」9%であった。
- ・ また、「難病」「がんサバイバー」「その他病気」など、健康上の理由から働きづらさを抱えている方が18%を占めた。

※障がい者とは、障害者手帳の取得の有無に関わらず、何らかの医師の診断を受けている方を示す。



Ⅱ-6. 受付・インテーク状況について

■ 受付・インテークを実施した28名の主な相談内容について統計をとり、見えてきた傾向を以下にまとめた。

1. 一番多いのは「がん等の病気があり、働くことに不安がある」が29%の割合を占める。

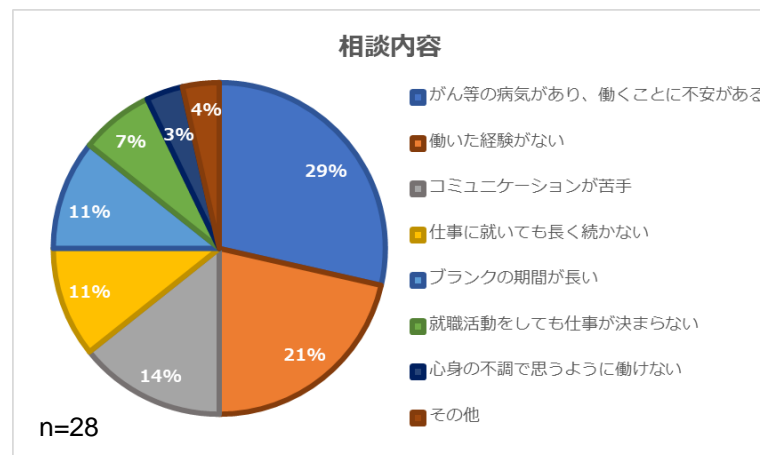
- ・ がんに限らず、難病や事故による怪我、脳梗塞、甲状腺などの病気により、働けない状況になったり、できる仕事に限られてしまうなど、働くことに困難さを抱えている。
- ・ 生活困窮に陥るきっかけも、病気や怪我からくる理由が多い。

2. 次いで多いのが「働いた経験がない」で21%であった。

- ・ 短期のアルバイト経験はあるが、正職員での就労経験がない方が多い。また正職員での就職が決まっていたが、すぐにやめてしまった方などもいた。
- ・ 就労経験の無い若者だけでなく、今まで専業主婦で外で働いた経験がない方からの相談もあった。

3. 「コミュニケーションが苦手」14%、「仕事に就いても長く続かない」11%。

- ・ 上記を理由として挙げている方は、障害を自認していたり、何らかの発達障害特性があるのではと感じている方が半数いた。



Ⅱ-7. 支援機関からの紹介事例について

取扱注意

- 他の支援機関より紹介を受け、ワークダイバーシティモデル事業に繋がった事例を抜粋した。



● ハローワークからの紹介

- ・ 30代男性。バセドウ病により強い動悸があり、激しい運動ができない。小5から不登校で、20歳頃まで家にひきこもっていた。母親と弟と3人暮らしで、生活困窮に陥っている。
ダイバーシティ就労拠点先の体験を実施していたが、途中で体調を崩し中止。その後は精神的な落ち込みもあり、連絡が途絶えがち。ハローワークや岐阜県難病団体連絡協議会と情報共有しながら、継続して連絡を取り続けている。



● 病院からの紹介

- ・ 50代男性。病院からの紹介。くも膜下出血で高次脳機能障害に。2年前までは障害者手帳を持っていたが、必要性を感じず更新しなかったため問合せ時は不所持。父は要介護で入院し、母と暮らし家事手伝いをしていた。
ダイバーシティ就労拠点先の見学や体験を実施したが、一般就労への不安が強かったため、障がい者手帳を取得し福祉就労を進めていく事を決めた。障害者就業・生活支援センター（なかぼつ）へリファー。

II-8.広報活動について

- 広告の掲載や広報活動の実施概要を以下にまとめた。
- 広報ぎふ（12/1）への広告掲載
- 11/20、FCぎふの試合にてブース出展、CCNステージにて広報活動
- 日本財団主催「就労支援フォーラムNIPPON 2022」に、柴橋市長と共に代表後藤が登壇
- CCNの岐阜市広報番組「ぎふっciao」にて3月いっぱい放送予定



広報ぎふ12/1



FCぎふ試合会場CCNステージ

Ⅲ. 本事業の対象者像ならびに利用後の変化について



Sustainable
Support

Ⅲ-1.利用につながった相談者一覧

- 利用を開始された8名について、属性や成育歴、特性を以下にまとめた。

No	相談者の属性	成育歴、特性など
1	20代男性 引きこもり・グレーゾーン	学生時代から 不登校 を繰り返す。 高校中退後 は家に引きこもり、就労経験がない。 コミュニケーションが苦手 で、働くことに不安がある。
2	30代女性 ニート・グレーゾーン	中学生の頃から 不登校 で、 高校は中退 。大卒認定を取り、通信制大学を卒業。軽作業や営業職、介護施設等で働くが、 他者との関係性に悩み 、 病院に相談 した事もある。
3	20代男性 引きこもり	大学中退後 に6年間引きこもる。その後通信制大学を卒業。1年半ほどアルバイト経験はあるが、正職員の就労経験はない。 働きたいが自信がない と話す。
4	40代男性 生活困窮・後遺障害	専門学校卒業後は 20年ほど非正規雇用にて接客業に従事 。就労中に強盗に会い、 足の怪我 を負い退職。更に父の脳梗塞により生活が困窮、現在は生活保護受給中。
5	50代女性 その他病気・グレーゾーン	70代母と二人暮らし。 シングルマザーで派遣やパート をこなし、子育てを行ってきた。 甲状腺の病気 により気分の浮き沈みが激しい。昔から働きづらさを感じており、自分は 発達障害かもしれない と思っている。
6	50代男性 生活困窮	定時制高校中退 。その後は 派遣にて製造業で20年ほど働く 。生活保護受給中。就職活動を行うが不採用が続き、仕事が決まらない。
7	20代男性 ニート・グレーゾーン	中学時代の トラウマから人と関わるのが苦手 。大学卒業後に製造業に就職するも、辛くなり退職。コミュニケーションが一方的になりがちな所がある。
8	50代男性 生活困窮・引きこもり	高校中退後 、トラック運転手や警備員など働くが仕事が続かず、その後引きこもり25年間無職。 人と接する事が苦手 、病院嫌い、潔癖症。

Ⅲ-2.利用者の状況から見える傾向について

- 利用を開始された8名について、属性や成育歴、特性を以下にまとめた。

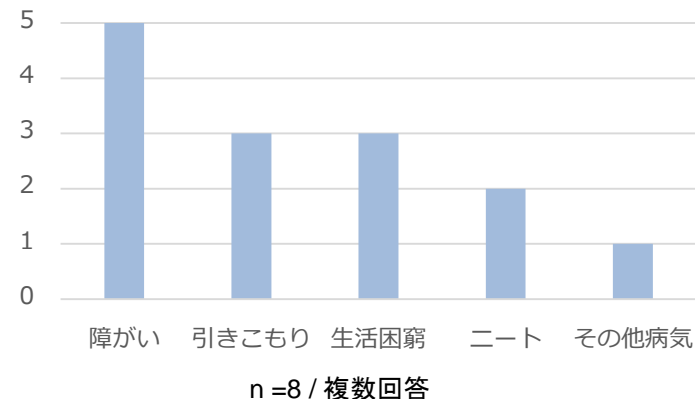
●利用者の属性について

- 利用決定となった8名中、5名は心身になんらかの障がいを抱えている状況にある。なお、4名は発達障害の傾向があり、1名は足に後遺障害を抱えているが、既存の障害福祉サービスの利用対象とはならない。
- 20代～30代の利用者はニート・引きこもり状況にある一方で、40代～50代の利用者は生活困窮や病気などを抱えた状況にある。

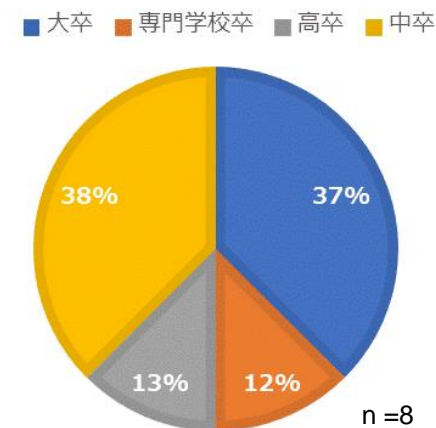
●利用者の生育歴/経歴について

- 8名中5名が高校・大学中退を経験している。また、5名中2名は不登校を経験している。
- 就労経験がない方は8名中1名のみ。その一方で、正社員経験がない方は5名であり、非正規雇用での経験しかない方が多い。また、正社員経験がある方についても短期間で離職している状況がある。

利用者の属性



学歴



Ⅲ-2.利用者の状況から見える傾向について

- 利用を開始された8名について、属性や成育歴、特性を以下にまとめた。

●利用者が抱える困難さについて

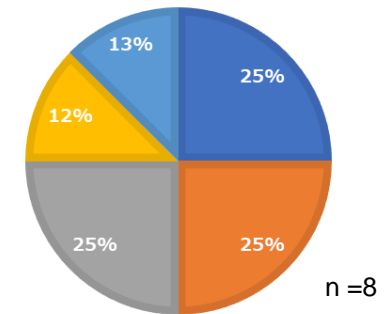
- インテーク時の聞き取りで、相談内容として多かったのは「働いた経験がない」「ブランクの期間が長い」「仕事に就いても長く続かない」であった。
- 経験の浅さや就労から離れている事に対して不安を感じるため、就職の前に訓練を必要としている方が多いと考えられる。

●利用している機関について

- 利用決定となった8名中、4名（50%）はぎふ就労支援センターを利用している。ついで、ウェルテクノスジョブトレーニングセンターが2名、ワークサポートあすなる・ノックス岐阜が1名となっている。
- 賃金が得られるという点で、就労継続A型事業所であるぎふ就労支援センターを希望する声が上がっている。生活困窮状況にある利用者にとっては、トレーニングと併せて賃金が得られるスキームが重要であることが伺える。

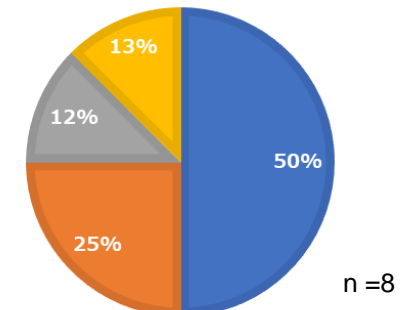
相談内容

- 働いた経験がない
- ブランクの期間が長い
- 就職活動しても仕事が決まらない
- 仕事に就いても長く続かない
- コミュニケーションが苦手



利用している機関

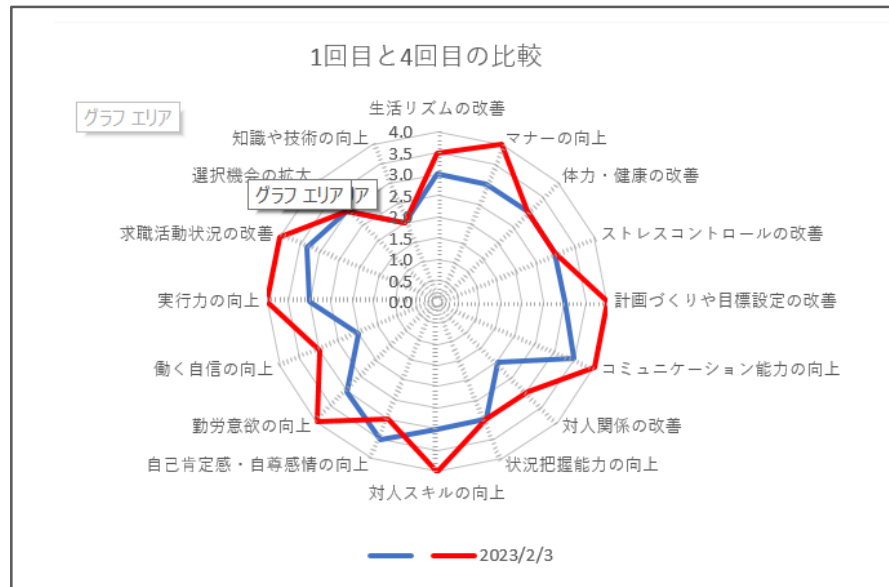
- (A型) ぎふ就労支援センター
- (移行) ウェルテクノスジョブトレーニングセンター岐阜
- (移行) ワークサポートあすなる
- (移行) ノックス岐阜



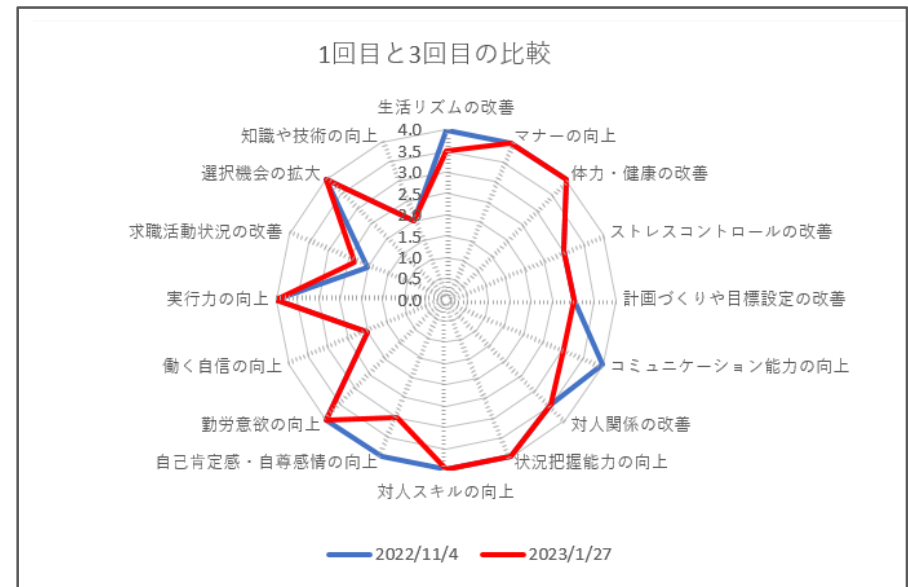
Ⅲ-3.利用開始後の変化について

- 本事業利用者の利用開始後の変容を以下にまとめた。下記のグラフはKPSビジュアルイズツールを使用し、利用者が自己申告したアセスメント結果である。初回の結果が青、訓練後の結果が赤。
- 利用開始前と比較して、Aさんは全体的にポイントが向上している。
- 2人に共通して「求職活動状況の改善」は上がっているが、「自己肯定感・自尊感情の向上」は下がっている。
- 訓練参加により周囲や現実とのギャップを感じ、一時的に下がっている可能性も考えられる。

■ Aさんの自己申告によるアセスメント
(利用開始前と3カ月半後の比較)



■ Bさんの自己申告によるアセスメント
(利用開始前と2カ月半後の比較)



Ⅲ-4.利用者の感想と支援者の所見

- 利用開始後のご本人の感想や支援者の所見を以下にまとめた。

本人のコメント

- ・少しずつ業務サイクルに慣れてきて「課題をこなすのが楽しい」という感覚が現れてきました。WDを利用できる岐阜市民でよかったです。
- ・失敗しても次の日にまた仕事があると思うとがんばれた。

Aさん



支援者のコメント

- ・ゆっくりだが、ひとつひとつ段階を踏んで自信を付けている様子。
- ・スキルのには業務は問題なく行えているので、無理をしすぎて体調面やメンタル面が崩れていかないように支援を行っていく。

本人のコメント

- ・両親が喧嘩をしていた。いつもなら仲裁に入って巻き込まれて落ち込んでいたが、今回は「こんな所にいられないので、俺逃げるね」と外出した。自分から逃れたことは初めてだった。これも訓練の成果かなと思っている。

Bさん



支援者のコメント

- ・笑顔が増えた。
- ・以前よりも、自分の考えや悩みを伝えられるようになった。少しずつ自分のことを他人に話せるようになっていくとよい。

IV. 前回会議の検討事項について



Sustainable
Support

IV-1.前回の検討会で出た意見の振り返り

- 前回の検討会を通じていただいた意見を以下に整理した。

テーマ①

「働きづらさを抱えている方」とは？

- 障害や病気などを受容できていない。
- 不登校、中退などルールから外れた後にひきこもってしまう。
- 長期間就労経験がないために働くことをあきらめている。
- 離転職を繰り返している。

テーマ②

「働きづらさを抱えている方に必要な社会資源は何か？」

- 高校大学等の中退時に支援からこぼれるケースが多い。学校との連携・先生との情報共有が必要。
- 他団体の名前は知っていても、支援内容を詳しくは知らない。社会資源マップを作るなど社会資源の整理が必要。
- 障害者以外の人にもジョブコーチ支援を提供する。

テーマ③

「働きづらさを抱えている方の就労先は？ どのような支援があれば受け入れやすいか？」

- 受け入れやすい環境を作っていくために、仕事の切り分け方等のノウハウ共有、ジョブコーチのような支援・仕組みが必要。
- 実際に受け入れた企業同士の横の繋がりを作れた方が良い。
- 企業サポートもできる健全な派遣会社のような存在がほしい。



IV-2.事業に反映した取り組みについて

- 検討会で出た意見をもとに、事業に反映した取り組み内容を以下にまとめた。

● 通信制・定時制高校との連携の取り組み

- ・進学や就職が決まらず卒業予定の生徒や、中退した生徒へ本事業をご紹介いただけるよう、岐阜市内の通信制・定時制高校、フリースクールなど11校へ訪問し、事業案内を実施した。
- ・うち1校においては、校長や進路指導の先生との対話を持つことができた。生徒はグレーゾーンが多いが、障がい者手帳の取得については生徒も保護者も消極的であること、また進学や就職が決まらず卒業する生徒が3割いることがわかった。
- ・進学や就職が決まっていない生徒を集めたハローワークの説明会に同席し、ワークダイバーシティモデル事業についても周知を行った。

V. 就労困難者を支える地域資源に関する意見交換



Sustainable
Support

V-1.本日の意見交換のゴール

■ 本日の意見交換における目的・ねらいについて以下の通り整理した。

● 多様な就労困難者が活躍できる地域づくりに向けて、社会資源マップを作成する

- 初回の会議を踏まえて、異分野の機関同士が関わり合う機会の少なさを実感した
- また「支援現場における支援困難ケースについての事前アンケート」から、適切な社会資源がない、わからない状態で困っているケースが発生していることがわかった。以下にアンケート回答を抜粋した。
 - 障害者総合支援法の対象とならない難病の方
 - 本人には何らかの障がい疑われるが、自己受容できておらず受診や福祉サービスの利用を拒否するなど制度に繋がらないケース
 - 制度の狭間にあり、様々なサービスにつなげにくい

**働きたいが機会が得られない市民が活躍できる地域づくりにむけて、
本事業に関わる支援団体と企業の連携を促す社会資源マップを作成したい**

V-2.社会資源マップ作成に向けたステップ

- 社会資源マップを作成するにあたり、進め方を以下にまとめた。

ステップ

1

- 地域の雇用ニーズを知る、既存の社会資源の整理を行う

ステップ

2

- 社会資源マップの構成、及び内容のブラッシュアップ

ステップ

3

- 社会資源マップの完成

V-3.意見交換会について

- 下記の3つのテーマに沿って進める。テーマ②と③では各テーブル毎に意見交換を行う。

テーマ①

- 支援団体が地域の企業の現状を知る

テーマ②

- 意見交換①地域の企業の現状を知り、必要な支援や体制について考える

テーマ③

- 意見交換②社会資源マップ作成にむけて、必要な地域資源を整理する

テーマ① 支援団体が地域の企業の現状を知る

■ 地域企業を支援する団体から、雇用の現状について話を聞く

- ・ 岐阜商工会議所 中小企業相談所長 鬼頭貴士 様
- ・ 一般社団法人岐阜みらいポータル協会 会長 豊田良則 様
- ・ 一般社団法人岐阜みらいポータル協会 センター長 大原基秀 様

テーマ② 地域の企業の現状を知り、必要な支援や体制について考える

■テーマ①の話を踏まえ、下記についてご意見をお聞かせください

Q.就労困難者が現在の地域企業へ就労できると思いますか？

Q.企業側はどのような受入体制/理解が望ましいと思いますか？

また企業側にどのような変化を望みますか？

Q.支援団体として、企業と就労困難者の双方を支えるためにどのようなことができると思いますか？

テーマ③ 社会資源マップ作成にむけて、必要な地域資源を整理する

■ 社会資源マップの試案を見て、ご意見をお聞かせください

Q.記載されている支援機関や窓口について、修正箇所はありますか？

Q.地域の中で不足している（十分ではない）社会資源はどのようなものがありますか？

Q.社会資源マップの構成、又はより良い整理方法をご提案ください